

塩見俊二氏について

◆明治40年5月、高知県土佐市に生まれ、昭和5年3月に東京帝国大学（現在の東京大学）法学部政治学科を卒業し、その後15年余りの間、日本統治下の台湾総督府において財政・金融・税制改革に尽力されました。

帰国後は国税局長などを経て昭和31年に参議院議員に当選し、自治大臣・国家公安委員長、厚生大臣、自民党参議院幹事長などの要職を歴任されました。

◆昭和55年11月に73歳で逝去されるまで、嘘や私欲のない清廉な精神と高い志を持ち、豪放で人情に厚く、国と郷土を想い、本と人と酒をこよなく愛した塩見先生の飾らない土佐人氣質は、多くの人の心を惹きつけ、現在も類まれな政治家として慕われています。



台湾総督府時代の塩見ご夫妻

台湾総督府時代（昭和6年～21年）

大学卒業後昭和6年7月に、台湾総督府に任官し昭和8年には和子夫人という良き伴侶も得て、税制整理に没頭し、台湾に近代的な税制を6年かけて構築されました。

昭和20年8月に塩見氏は東京で大蔵省と折衝中でしたが、その時（昭和20年8月15日）、太平洋戦争の終戦詔勅が下されたので、台湾を中華民国に円滑に接收させると共に、台湾に在留する30万の民間日本人を無事に日本に送還する任務のため、急遽、自身の危険を顧みず単身で、飛行機に満載した台湾銀行券の上に乗って台湾に戻られ、その後1年3カ月の間戦後処理に尽力されました。

大蔵官僚時代（昭和22年～30年）

帰国後は、東京財務局直税部長、熊本財務局長、広島国税局長、大阪国税局長を歴任されましたが、国政への出馬を目指すため、大勢の職員に惜しまれながら、大阪国税局長を最後に退官されました。



大阪国税局長時代（改正法人税説明会での挨拶）

政治家時代（昭和31年～54年）

昭和31年7月に参議院議員に初当選後、昭和41年に自治大臣・国家公安委員長、昭和47年に厚生大臣、昭和49年には自民党参議院幹事長に就任するなど、数々の要職でご活躍されました。



第一次佐藤改造内閣 自治大臣・国家公安委員会委員長に就任
(最後列：右から二人目)



第一次田中内閣 厚生大臣に就任
(三列：左から二人目)



参議院 本会議場で

塩見文庫の開設（昭和34年～）

多忙な国政の傍らで、ご夫妻は「子どもがいればかかったであろう教育費」として地道に本を購入し続け、塩見文庫の開設準備に力を注がれました。昭和41年に開館した塩見文庫は、昭和53年には財団法人小津図書館に発展し、多くの若者が学びの場として利用しました。

塩見氏は病氣療養中に、家宅一切を図書館に寄付することを決意し、昭和55年に逝去されました。



昭和41年
電気ビル6Fに塩見文庫開設



昭和47年4月
小津町の塩見文庫落成式



4F閲覧室の様子



昭和55年5月
塩見先生をたたえる会（高知市県民体育館）

塩見氏と本

塩見氏は無類の本好きで、大臣時代に姿が見えなくなり探すと、神田の古本屋にいたというエピソードが残されています。

また、ご自身も、台湾総督府での経験を活かして「台湾相続税令解説」「台湾経済年報(編集・執筆)」など、政治家になられてからは「中華人民共和国の財政と租税制度」「外から日本を見る」などの書籍を執筆され、晩年は「憲政と土佐」の執筆を自身のライフワークとして取り組まれていましたが、病に倒れられ、残念ながら未完のまま亡くなりました。



▲書斎にて

※憲政と土佐：日本憲政の発展の跡を辿りながら、土佐の政治家が憲政史上果たした役割を明らかにするもの